2008～2009年度

中津平成週報

国際ロータリー2720地区 中津平成ロータリークラブ

会長 加来敏男　幹事 矢頭和敏　会報委員長 田原和己

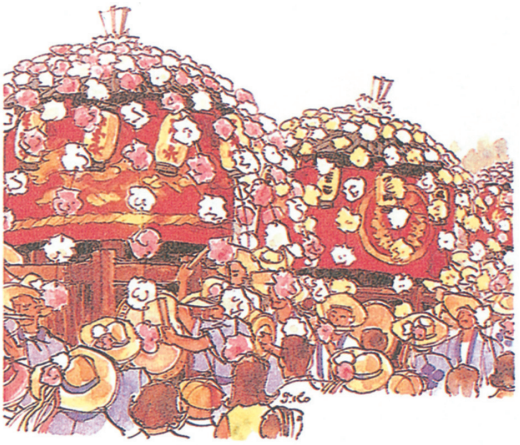
例会日／毎週木曜日 12：30　例会場／グランプラザ中津ホテル ☎24-7111
事務局／〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F
☎0979-22-9716　FAX 0979-22-9722
e-mail office@n-heisei.org　http://www.n-heisei.org/

2008～2009年度　国際ロータリー・テーマ

夢をかたちに

Make Dreams Real

国際ロータリー会長　李　東建



第912回例会　平成20年12月11日（木）

◎本日の例会プログラム

クラブ年次総会、20周年実行委員会　担当：辛嶋崇会員

◎次回例会プログラム　ゲスト卓話「大分空港について」
大分県総合交通対策課　課長　谷口礼史氏

前回（911回例会）の記録

平成20年12月4日（木）

■ビジター

なし

■出席報告

会員数	26名
免除者数	1名
対象者数	25名
本日出席者	19名
欠席者数	6名
出席率	76.00%

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者	4名
メイクアップ	0名
欠席者	4名
修正出席率	84.62%→ 84.62%

●メイクアップ

なし

●欠席者

松本、出納、江渕、八坂

◎ロータリーソング　君が代、奉仕の理想

◎会長の時間　　会長　加来敏男

今日は先日、新聞に載っていた石油の話をします。石油の採掘が本格的に始まったのは19世紀後半。日本人は1人あたり、燃料やプラスチックなどで平均1日約6.7ℓの石油を使うそうです。人類はすでに1兆バレルを使ったと推計されていて、石油メジャー・BPの統計では残る確認埋蔵量は1兆2379億バレル（07年）。富士山をひっくり返し杯に見立てると、その8分の1程度の量だそうで、問題は生産量が減り始める「石油ピーク」がいつ来るかで、それを境に価格は跳ね上がる。「すでに来た」「10年代半ば」「30年前後」から、「オイルサンドなどがあるので当面来ない」など諸説あるそうです。

現在、そのオイルサンドの採掘で活況を呈しているのは、北緯57度、カナダアルバータ州北部の町で、粘りの強い油と砂とが混じったオイルサンドの地層が一帯に広がっているためです。石油の枯渇がささやかれるなか、世界が注目する最後の未開拓地。製油所の技術者は「ここで起きているのは現代のゴールドラッシュ」という。実際、オイルサンドは「黒い金」と呼ばれています。

02年末、カナダのオイルサンドは原油の埋蔵量に算入されるようになったそうです。原油の高値傾向で、採掘コストの高いオイルサンドも採算がとれ始めたからで、カナダの原油確認埋蔵量は35倍の1790億バレルとなり、世界21位からサウジアラビアに次ぐ2位に躍り出たそうです。

しかし、オイルサンドは湯で砂と油を分離するため、生産段階で従来の石油の2～3倍のエネルギーがかかり、より二酸化炭素を多く出すそうです。排水池は計130平方㌔にも及び、管理が不十分な所では油や水銀、揮発性の有害物を含み、「川や湖を汚染し、住民に健康被害が出ている」という告発もあるそうです。

京都議定書でカナダは「温室効果ガスの90年比6％削減」を義務づけられているが、オイルサンドの影響も大きく、30％近く増えているそうで、カナダ政府は昨春、「削減目標は守れない」と断念宣言をしたそうです。

日本では、石油危機後の80年、石油代替エネルギー促進法が制定され、エネルギーの石油依存は80年当時の80％から今は50％を切っているそうです。
またバイオ燃料、バイオ素材などが開発されていますが、原料がトウモロコシなどの食料なので、今度は食料問題になってしまいます。つい最近のガソリンの高騰騒ぎで石油不足を本当に実感しました。我々の時代は大丈夫かもしれませんが、その後が心配です。

◎幹事報告　　幹事　矢頭和敏

●例会変更　中津中央RC→12/23（火）12/30（火）休会、1/6（火）新年家族会の為18:30～。津久見RC、湯布院RC、別府北RC、豊後高田RC、大分中央RC

●週報受理　仙台平成RC、宇佐八幡RC、津久見RC、中津RC

●幹事報告

・ロータリーの友届く。

・ガバナー月信届く。

・中津商工会議所より「新年賀詞交歓会」の開催についてご案内。

・中津ライオンズクラブ・ライオネスクラブより、ライオンズクラブ50周年、ライオネスクラブ25周年記念大会ご臨席のお礼

・ガバナー事務所より地区大会「週報コンテスト」について

●理事会報告　例会終了後、理事会を行います。

◎委員会報告

〇会報委員会

本日週報のホルダー用の穴が違っています。ご理解ください。

〇SAA

今回の例会からビジター席を設定しています。ご協力お願いいたします。

〇IT広報委員会

ロータリーの友12月号が届いています。今月は「家族月間」です。ロータリー家族に関心を持ってください。ポリオの現状が載っています。

ニコニコボックス

担当：プログラム委員会

〇渡邉会員

研修会からとんぼ返りで来週の例会は休みます。

〇加来会長

週報の原稿を送るのが遅れました。川原田さんに迷惑をおかけしました。気をつけます。

◎ゲスト卓話

「宇佐・国東文化遺産の世界登録について」

大分県文化スポーツ振興課

課長　塩川也寸志氏

●提案資産『宇佐・国東－「神仏習合」の原風景』の価値について

神仏習合→全国に神宮寺・密教寺院等の歴史遺産が存在

↓

本質＝思想史的な意義がきわめて重要

↓　　→「思想」は抽象的であるが故に世界的に普遍の価

↓　　値を有する（神道＝Shintoismは国際語であること

↓　　とを想起されたい）

↓

「神仏習合」の思想史的意義

1．神道（Shintoism）が教義として一定の思想的構造を有するに至る契機となった。

2．仏教側は本地垂迹という教理を通じて日本における伝統的神祇信仰との調和を図ることとなった。

↓

「神仏習合」はまさに日本（日本人）固有の文化の基層を形づくるものであり世界史的にみても非常に重要な歴史的事象であったということができる。

●宇佐神宮・国東半島を含む大分県北部エリア

1．神と仏の結縁を伝承する遺産（八面山、御許山）

宝珠を巡って権現（八幡）と争った法蓮は、法蓮を神宮寺の別当に迎えることで和与し、同心の契を成す。（託宣集巻5）

小倉山麓の菱形池の辺に3歳の小児が現れて「我は是れ日本人皇第16代誉田天皇広八幡麻呂なり。我名をば、護国霊験威力神通大自在王菩薩なり。」と曰ふ。（託宣集巻5）

2．神仏習合を推進した仏教寺院の遺産（虚空蔵寺塔跡、法鏡寺廃寺跡）

法蓮和尚は、山本に於て虚空蔵菩薩を崇め奉り、華厳は法鏡寺に於て如意輪菩薩を崇め奉り、覚満は来縄郷に於いて薬王菩薩を崇め奉り、躰能は六郷山に於て薬師如来を崇め奉る。皆以て伽藍等を建立せらる。（託宣集巻5）

3．神仏習合完成期の遺産（宇佐神宮、薦神社）

小倉山を切り払ひ、大神宮を造り奉る。併せて大菩薩が願主となって弥勒禅院と号す寺が造られ仏像が安置される。（託宣集巻6）

三角池で大神諸男が隼人鎮圧の行幸の御験を努めた際、大御神から「我れ昔此薦を枕と為し、百王守護の誓を発しき。百王守護とは凶賊を降伏すべきなり。」との託宣があった。（託宣集巻5）

4．神仏習合の展開を示す遺産（六郷満山寺院群）

豊後国の六郷山は昔八幡菩薩が人聞菩薩に化して修練行を行った峯なり。僧能行が津波戸の石室で人聞菩薩巡礼の次第を決めた際に老僧が現れ、「此の山に修行するに2つの路有り。跡を留めむ僧侶は、各此の峯を護持して、聖跡を巡行すべきなり。吾は是れ、昔の人聞菩薩・弥陀如来なり。」と告げた。（託宣集巻11）

八幡神の入京（東大寺八幡縁起絵巻）

「続日本紀」天平勝宝元年（749）12月27日

八幡大神の禰宜尼である大神杜女が紫色の輿に乗って東大寺に出向き、孝謙天皇、聖武太政天皇、光明皇太后をはじめ百官・諸氏が居並び、5000人の僧の読経の中、大仏を礼拝。左大臣橘諸兄は神前で大仏造立に際して八幡神が発した「神吾、天神地祇を率しいざなひて、成し奉って事立て有らず。」との託宣による援助を謝した。

宇佐神宮・国東半島を含む大分県北部エリアには、「神仏習合」の原始段階から最盛期に至るまでの歴史的資産が、神仏習合史のそれぞれの段階を俯瞰できる状態で保存されており、「神仏習合」の世界史的な意義を考えると、同エリアの神仏習合遺産群は、十分に世界遺産としての価値があると考えられる。

●田染荘（小崎地区）の水田集落景観に関する講演録（抜粋）

この水田地帯は、何世代にもわたる人々の努力によって造られたものなのです。この美しい風景は長年にわたる人々の知恵と汗の結晶とも言えるでしょう。とはいえ、人々はこの地を美しく見せようとして棚田を造り上げたわけではありません。そこに存在する土地を、その自然条件の中で最も理にかなった形で利用しようと努力した結果なのです。このような厳しい地形条件の下で、こうした棚田を維持していくことは、決して容易なことではありません。しかし、良好に管理された棚田は、作物の豊かな実りをもたらすだけでなく、大雨の際にはため池としての役割を果たし、下流に広がる平野の洪水を軽減してくれることにもなるのです。また、田に引かれた水の一部は地下に浸透し、地下水となって下流部を潤します。小さいながらも、人々の手によって新たな水環境が作られることになるのです。このように私たちは、先人たちが遺した努力の結果を最大限に利用しながら、それに改善・改良を加え続けることにより、それぞれの地域に見合った形で「足りない水」の問題に対処してきたのです。

（H19.12.3　第1回アジア・太平洋水サミット開会式　皇太子殿下記念講演）

（文責：田原）